

## 第2章 施設分類別の再編方針

### 1. 市民文化系施設

#### (1) 集会施設

市民の学習活動や趣味・生きがい活動、コミュニティの活性化のための活動拠点として、生涯学習センターや地区センターなど20施設を設置しています。また、すでに一定の役割を果たし普通財産に用途変更して地域団体に無償で貸し出している集会施設4施設、全体では24施設を設置しています。これらの施設について、施設の役割や機能の面から以下のように分類します。

#### 【施設の分類】

- i 地域（旧市町村）単位に設置する施設
- ii 地区単位に設置する施設
- iii 町内会・集落単位に設置する施設

#### i 地域（旧市町村）単位に設置する施設

#### ア これまでの取り組み

「皆瀬生涯学習センター」を、令和5年度に皆瀬総合支所、皆瀬診療所と複合化して建替えました。移転前の施設は廃止し、今後、除却時期を調整します。

また、「湯沢生涯学習センター」と「湯沢勤労青少年ホーム」の機能を統合し、令和8年度に建設予定の湯沢駅周辺複合施設に移転することとしています。

#### ○現有施設（6施設）

施設No.	施設名	所在地	地区	所管課
集1	湯沢生涯学習センター（湯沢公民館）	佐竹町4-5	湯沢	生涯学習課
集2	湯沢勤労青少年ホーム	佐竹町4-52	湯沢	
集3	稲川生涯学習センター （稲川農村環境改善センター・稲川公民館）	川連町字上平城120	川連	
集4	雄勝生涯学習センター（雄勝公民館）	横堀字白銀町49-1	横堀	
集5	皆瀬生涯学習センター（皆瀬公民館）	皆瀬字沢梨台66番地1	皆瀬	
集6	文化交流センター	字沖鶴69-5	湯沢	

#### イ 現状と課題

施設No.	施設名称	建築年	法定耐用年数	経過年数	延床面積(m <sup>2</sup> )	運営形態	職員数	支出(千円)	収入(千円)	利用人数
集1	湯沢生涯学習センター （湯沢公民館）	S46	50	51	1,338	直営管理	正3,再2,会1	24,889	265	10,700
集2	湯沢勤労青少年ホーム	S43	50	54	1,115			6,071	332	14,200
集3	稲川生涯学習センター （稲川農村環境改善センター・稲川公民館）	S62	50	35	1,117		正1,再1,会1	14,131	42	1,500
集4	雄勝生涯学習センター （雄勝公民館）	H8	50	26	45		正2,会2	10,790	—	—
集5	皆瀬生涯学習センター （皆瀬公民館）	R5	38	0	398		正2,会1	18,544	300	1,500
集6	文化交流センター	S61	50	36	2,161		会2	17,937	517	75,400

※稲川生涯学習センターの「利用人数」は多目的ホールの利用者を除いたもの。（通年でワクチン接種会

場としての利用のみだったため。)

※皆瀬生涯学習センターの「支出」～「利用人数」は移転後施設の見込み数値。支出額は人件費のみで、施設の維持管理費は皆瀬庁舎に一括計上しています。

### 集1 湯沢生涯学習センター（湯沢公民館）

鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積1,338㎡。昭和46年に旧耐震基準で建設し、耐震基準を満たしておらず、建築から51年経過し老朽化が顕著となっています。また、土石流・急傾斜警戒区域に含まれています。

開館日・開館時間は、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）を除く毎日、8時30分から22時までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は24,889千円となっています。施設の利用料及び暖房費として265千円の収入があります。

施設は、第1～第5集会室、寿の間、調理実習室等で構成し、湯沢市民大学や生き生き体験学級などの事業のほか、市民団体の自主的な活動で使用され、年間約10,700人が利用しています。また、施設の一部を湯沢市役所職員労働組合に事務室として提供しています（有償）。利用状況は次のとおりです。

#### 【利用状況】

部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)
第1集会室	24	第4集会室	22	寿の間	25
第2集会室	24	第5集会室	5	調理実習室	5
第3集会室	8				

### 集2 湯沢勤労青少年ホーム

鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積1,115㎡。昭和43年に旧耐震基準で建設し、耐震基準を満たしておらず、建築から54年経過し老朽化が顕著となっています。また、土石流・急傾斜警戒区域に含まれています。

開館日・開館時間は、年末年始を除く毎日、8時30分から22時までで、管理運営は併設する湯沢生涯学習センターが一括して行い、人件費を含む管理運営費は6,071千円となっています。施設の利用料及び暖房費として332千円の収入があります。

施設は、スポーツ室、講話室、講習室、陶芸室等で構成し、勤労青少年を対象とした講座等の実施はなく、市民団体等の自主的な活動に使用され、年間約14,200人が利用しています。また、施設の一部を湯沢地区保護司会に事務室として提供しています（無償）。利用状況は次のとおりです。

#### 【利用状況】

部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)
スポーツ室	38	講話室	9	講師控室	26
講習室	23	陶芸室	16	娯楽室	26

### 集3 稲川生涯学習センター（稲川農村環境改善センター・稲川公民館）

鉄筋コンクリート造平屋・一部2階建て、延床面積1,117㎡。昭和62年に新耐震基準で建設し、建築から35年経過し老朽化が進んでいます。

開館日・開館時間は、年末年始と火曜日を除く毎日、8時30分から21時までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は14,131千円となっています。施設の利用料として42千円

の収入があります。

施設は、会議室、視聴覚研修室、創制作活動室、サークル室、多目的ホールで構成し、書初め大会や、市民団体の自主的な活動で使用され、年間約1,500人が利用しています。利用状況は次のとおりです。

#### 【利用状況】

部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)
会議室	5	創制作活動室	1	多目的ホール	—
視聴覚研修室	6	サークル室	5		

※多目的ホールは通年でワクチン接種会場として使用

### 集 4 雄勝生涯学習センター（雄勝公民館）

雄勝生涯学習センター（雄勝公民館）は、雄勝文化会館の1階の会議室を事務室として使用しており、各種講座教室など生涯学習センター主催の事業は地元NPOに委託し、別の施設で実施しています。専用延床面積45㎡（施設の構造等は雄勝文化会館を参照）。

執務時間は、年末年始と土・日曜日、祝日を除く毎日、8時30分から17時15分までで、光熱水費等の管理運営費の一部は雄勝文化会館の費用に含まれています。

### 集 5 皆瀬生涯学習センター（皆瀬公民館）

令和5年に建設し、皆瀬庁舎等との複合施設で、鉄骨造、平屋建ての一部分で延床面積は398㎡です。

開館日・開館時間は、年末年始を除く毎日、月・水・金曜日は8時30分から22時まで、火・木・土・日曜日及び祝日は8時30分から17時15分までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は18,544千円を（施設の維持管理費は皆瀬庁舎に一括計上）、施設の利用料として300千円の収入を見込んでいます。図書コーナー、和室、調理室、会議室、視聴覚室で構成し、児童書道教室や図書事業（図書の貸出）、公民館利用の芸術文化団体等の作品展示を実施しているほか、総合型地域スポーツクラブや市民団体の自主的な活動で利用され、年間の稼働率は30%、利用者は1,500人を見込んでいます。

### 集 6 文化交流センター

鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建て・一部2階建て、付属施設を含む延床面積2,161㎡。秋田県が昭和61年に新耐震基準で建設し、平成22年に湯沢雄勝広域市町村圏組合に譲渡された後、令和2年4月1日に市に移管され、建築から36年経過し老朽化が進んでおり、平成23年・27年に多目的ホールの冷房設備改修工事と排煙窓改修工事を、また、平成24年に屋根改修工事を行っています。

開館日・開館時間は、年末年始を除く毎日、8時30分から22時までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は17,937千円、施設の使用料など517千円の収入があります。

施設は、多目的ホール、第1研修室、第2研修室（和室）、調理室、展示交流ホール、管理事務室、団体事務室等で構成し、市民団体の自主的な活動で使用され、年間約75,400人が利用しています。なお、令和2年11月から管理事務室を「老人クラブ」で、令和5年7月から第1研修室を「児童クラブさくらっ子」で、令和6年1月から団体事務室を「適応指導教室」で使用しています。利用状況は次のとおりです。

## 【利用状況】

部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)	部屋名	稼働率(%)
多目的ホール	23	第2研修室	10	展示交流ホール	19
第1研修室	31	調理室	16		

## 【現状と課題のまとめ】

行政需要が複雑・多岐に亘るとともに、よりきめ細かな対応が求められる中で、市民力・地域力を活かし、行政と市民・地域が協働で様々な行政課題を解決していく「地域経営」の仕組みづくりが必要とされています。

地域課題の解決の取組には、様々な制度を学習するとともに、実践活動を行うためのノウハウが不可欠であり、生涯学習センター・公民館には、趣味や生きがい活動など様々な学習活動の場に加え、地域課題解決のため学習活動や実践行動をサポートすることなどが新たな役割として求められています。

これまでの長年に亘る活動を通じて多くの人材を輩出し、自主的なサークル・団体の育成に取り組んできました。こうした人材や自主グループを人材登録して、地域の自主的な課題解決の取組を支援していくことも期待されます。

## ウ 今後の方針とスケジュール

総合管理計画の今後の方向性に基づき、「施設の安全性」、「施設の必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」の視点から検証し、分析・評価を行いました。また、分析・評価を踏まえて、施設の対応方針を定めました。これらの内容は次のとおりです。

### 【基本的な考え方】

- 生涯学習センターは市民の学習活動や趣味・生きがいなどの活動拠点として、また、地域課題を解決するために必要な情報や知識を収集・学習する拠点として継続します。
- 地域自治組織が地域課題の解決に自主的に取り組む「地域経営の仕組みづくり」を進めるなかで、地域の学習活動を支援するため、生涯学習センターのあり方について検討します。
- 管理運営について、当面、現行どおり市の直営管理としますが、地域経営の中核的な役割を担うことから、行政と市民等との役割を明確にしたうえで、地域力・市民力を活用した管理運営手法や市民等による講座等の企画・立案のあり方について検討します。
- 施設の使用料について、受益者負担の適正化の観点から、減額・免除規定の見直しを含め検討します。

### 【個別施設ごとの対応方針】

#### 集1 湯沢生涯学習センター（湯沢公民館）

- 昭和46年に旧耐震基準で建設し、耐震基準を満たしておらず、老朽化が顕著となっていること、また、土石流・急傾斜警戒区域に含まれていることから、機能については令和8年10月竣工予定の湯沢駅周辺複合施設に移転し、当該施設は、移転後に廃止し、除却時期を調整します。
- なお、湯沢駅周辺複合施設は、生涯学習センターの機能のほか、図書館機能、子育て支援機能、歴史展示機能、市民活動支援機能との複合施設で、民間のノウハウを活用した効率的・効果的な施設管理を行うため、設計・建設・維持管理・運營業務を一括して民間事業者へ委託して行い、竣工後の管理運営は指定管理者制度で行います。

## 集 2 湯沢勤労青少年ホーム

- 昭和43年に旧耐震基準で建設し、耐震基準を満たしておらず、老朽化が顕著になっていること、また、土石流・急傾斜警戒区域に含まれていること、施設を設置した当初の目的とは異なった利用実態となっていることから、機能については建設予定の湯沢駅周辺複合施設内に設置する湯沢生涯学習センターで担うことにし、当該施設は廃止し、除却時期を調整します。

## 集 3 稲川生涯学習センター（稲川農村環境改善センター・稲川公民館）

- 国庫補助金を導入して整備した農村環境改善センター内に生涯学習センターの機能を備えているもので、昭和62年に新耐震基準で建設し、建築から35年経過し老朽化が進んでいます。
- 農村環境改善センターから生涯学習センターへの用途変更については、関係機関と協議した結果、耐用年数経過後までは転用できないことから、当面、生涯学習センターとしての機能は継続し、施設については、必要な修繕を行い維持することにします。
- 管理運営については、民間活力の活用を含め効果的・効率的な管理運営手法を検討します。

## 集 4 雄勝生涯学習センター（雄勝公民館）

- 雄勝文化会館の指定管理者制度導入に伴い、生涯学習センターの執務室は雄勝支所内に移転します。
- 引き続き各種講座教室など生涯学習センター主催の事業は、地元NPOに業務委託し、他の公共施設を使用して実施します。

## 集 5 皆瀬生涯学習センター（皆瀬公民館）

- 皆瀬庁舎等との複合施設で、施設の改修等については施設全体の改修計画の中で対応します。
- 生涯学習センターの管理運営は、当面、市直営で行いますが、地域力・民間活力を活用した管理運営手法を検討します。

## 集 6 文化交流センター

- 昭和61年に新耐震基準で建設した建物であり、今後も継続使用することから、令和4年度に策定した湯沢市公共施設保全計画（令和4年9月策定。以下、「保全計画」という。）に基づき計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。
- 管理運営については、湯沢文化会館、雄勝文化会館、文化交流センターの3施設を一括し、令和6年4月から指定管理者制度に移行します。

## 【年度別スケジュール】

項目	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 ~ 2030年度 (R10) ~ (R12)
生涯学習センター 【共通事項】					
	地域の学習活動を支援する生涯学習センターのあり方検討				
湯沢生涯学習センター (湯沢公民館)					
	受益者負担の適正化の検討			検討結果に基づく対応	
湯沢生涯学習センター (湯沢公民館)			●		
			移転・複合化	指定管理者による運営	
湯沢勤労青少年ホーム			●		
			廃止	除却時期の調整	
稲川生涯学習センター (稲川農村環境改善センター・稲川公民館)					
	必要な修繕を行い継続使用				
					耐用年数経過後の施設のあり方の検討
稲川生涯学習センター (稲川農村環境改善センター・稲川公民館)	●				
	稲川農村環境改善センター機能の用途廃止手続き				
稲川生涯学習センター (稲川農村環境改善センター・稲川公民館)					
	管理運営手法の検討				
雄勝生涯学習センター (雄勝公民館)	●				
	事務室機能の移転				
文化交流センター	●				
	指定管理導入	保全計画に基づく改修を行い継続使用			

エ 概算事業費と効果額

単位：千円

施設 No.	施設名称	今後の 方向性		更新費用の試算（40年間：令和2～41年度）						維持管理費	
				現状維持した場合			本計画を実施した場合			単年度の比較	
		建物	長寿 命化	大規模改修	建替	合計	長寿命化等 大規模改修	建替	合計	現状維持	計画実施
集1	湯沢生涯学習センター （湯沢公民館）	複合化	●	904,251	723,669	1,627,920	465,816	3,280,200	3,746,016	7,559	90,386
集2	湯沢勤労青少年ホーム	廃止		753,740	603,215	1,356,955	0	0	0	741	0
集3	稲川生涯学習センター（稲川農村環境 改善センター・稲川公民館）	継続		377,587	604,362	981,948	0	0	0	4,531	4,531
集4	雄勝生涯学習センター （雄勝公民館）	継続		—	—	—	—	—	—	—	—
集5	皆瀬生涯学習センター （皆瀬公民館）	継続		—	—	—	—	—	—	—	—
集6	文化交流センター	継続	●	730,496	1,169,225	1,899,721	1,095,744	0	1,095,744	13,128	13,128
概算事業費（合計）				2,766,074	3,100,471	① 5,866,545	1,561,560	3,280,200	② 4,841,760	③ 25,959	④ 108,045

更新費用の試算比較 ②－①	単年度の維持管理費の比較 ④－③
△ 1,024,785 千円	82,086 千円

※ 湯沢生涯学習センターの「現状維持した場合」の更新費用と維持管理は現在の施設の金額を、「本計画を実施した場合」の更新費用と維持管理費は、湯沢駅周辺複合施設（図書館、歴史展示施設、子育て支援施設、市民活動スペースを含む）での推計値を計上しています。

※ 雄勝生涯学習センターと皆瀬生涯学習センターの更新費用と維持管理費は、雄勝文化会館（文2）及び皆瀬庁舎（庁4）に一括計上しています。